

平成22年度 神戸大学技術職員研修(集合研修)日程表

2010.8.11

・期間：平成22年9月～平成23年3月

・対象技術職員数：71名

・総合テーマ：「宇宙」

◆全体研修	9:00～ 9:20	9:20～ 9:30	9:30～ 10:00		10:10～ 11:10		11:20～ 12:20		13:20～ 14:20		14:30～ 15:50		16:00～ 17:10		17:30～ 20:00
9月6日(月) 瀬川記念学術交流 会館・大会議室(2F)	受付	開講式 事務連絡	「講話」 理事・副学長 田中康秀	会場 準備	「講義1」 『我々の宇宙、 400年』 理学研究科 教授 中川義次	会場 準備	「講義2」 『衛星から海の風を 測る』 海事科学研究科 教授 香西克俊	休 憩	「講義3」 『人体という宇宙を 観察する最新の 画像診断』 医学研究科 准教授 藤井正彦	会場 準備	「業務・技術報告」 医学(1名) 農学(1名) 工学(1名) 工学(1名) (※1) (15分+15分)×4種	会場 準備	「平成23年度 実験・実習技術研究 会 in 神戸」 全体会議	事務 連絡	懇親会 瀬川記念 学術交流 会館(1F)

*1) (医) 増田 理沙代「当教室における癌幹細胞研究及びその研究技術に関する報告」、(農) 田中大輔「家畜伝染病(口蹄疫)の現状と対策」、

(海) 小高山 千代「金箔放射化法に使用するGM計数管の検討」、(工) 金尾 優「建築構造系のコンクリートを扱う業務」

◆分野別研修	コース番号 分野 テーマ 講師/担当 等														
9月7日(火)	① 工学分野 『コンクリートをつくる・こわす』(講師：小林秀恵、近藤克大、金尾 優)														(工学研究科)
9月8日(水)	② 医学分野 『骨格標本観察～頭蓋骨を観る』(講師：薛 富義、崎浜吉昭)														(医学研究科)
9月9日(木)	③ 医学分野 『施設見学』『人体の宇宙探査』『京都大学・総合解剖センター、オムロン・コミュニケーションプラザ』(担当：薛 富義)														(医学研究科)
9月10日(金)	④ 工学分野 『施設見学』『自然の中で宇宙が地球環境に与える影響を考えよう』『西はりま天文台公園』(担当：福井喜一郎)														(工学研究科)
9月13日(月)	⑤ 工学分野 『電力コントローラの製作』(講師：伊地知武吉、菊田 望)														(工学研究科)
9月14日(火)	⑥ 理学分野 『七宝焼きの制作』(講師：梶並昭彦 准教授、三軒一義)														(理学研究科)
9月28日(火)、 29日(水)	⑦ 海事分野 『GPSと通信技術』 1日目：講義(若林伸和 准教授、河川信義 教授)、実習(担当：井川晶裕、原野 亘、黒木克典、油木代一) 2日目：【施設見学】「古野電気株式会社西宮本社」(担当：原野 亘、井川晶裕)、「大阪湾海上交通センター」(担当：黒木克典、油木代一)														(海事科学 研究科)
9月22日(水)	⑧ 農学分野 『施設見学』『安芸クィーン導入及び栽培技術』『食品産業技術総合研究機構果樹研究所』(担当：片山寛則 講師、寛 重文)														(農学研究科)
10月下旬～ 11月上旬	⑨ 農学分野 『施設見学』『枝肉の解体』『神戸ビーフ』(担当：本多 健 助教、久下志朗)														(農学研究科)
11月上旬～中旬	⑩ 農学分野 『施設見学』『水資源』『琵琶ダム、備いけうち』(担当：橋爪浩和)														(農学研究科)
未定 (23年2月～3月)	⑪ 農学分野 『未定』														(農学研究科)

(注) 1) 全体研修の受講は必修とします。 2) 分野別研修は各コースから2日分を選択とします。 3) 基本的に全学オープン化とします。 4) 開講式は行いません。

平成22年度 神戸大学技術職員研修 集合研修・分野別研修各コース内容概要

2010.7.28

コース番号 (日程)	(分野)【テーマ】(受講者定員) 集合場所/実施場所	内容概要【担当講師】
① (9/7)	(工)『コンクリートをつくる・こわす』(12名程度) 工学研究科/同左	コンクリートはできあがった形状の自由度や耐久性に優れた建設材料として広く認められ、重要な社会資本として膨大な量がつくられてきた。今回はコンクリートについての基礎講義と建設材料としてのコンクリートを実際につくる(練り混ぜ)【午前】とともに、硬化したコンクリートに力を加えてこわし【午後】、基本的な強度特性を実習形式により確認する。【小林秀憲 技術職員、近藤克大 技術職員、金尾 優 技術職員】
② (9/8)	(医)『骨格構本観察～頭蓋骨を観る』(15名程度) 医学研究科神経発生学分野第3実習室/同左	頭蓋骨は15種類23個の骨が組み合わさって脳を守り、顔面を形づくる複雑な「地球」である。この「地球」は直径わずか6cmほどのアラスと名付けられたギリシャ神話の神: 猿橋によって常に支えられている。本コースでは頭蓋骨の形態的特徴の理解を目標とし、分解骨標本および着色標本を用いて、その構造と機能を知る。特に、頭蓋骨に出入りする脳神経や重要な血管を通す孔や溝について習得する。【辻 富義 技術専門職員、崎浜吉昭 技術専門職員】
③ (9/9)	(医)『人体の宇宙探求』(15名程度) JR三宮駅8:20集合/ 午前:京大大学院解剖センター10:00～ 午後:オムロンコミュニケーションプラザ13:00～	《施設見学》人体という宇宙をより知るため、世界でも類を見ない数の内蔵標本を有する京都大学大学院医学研究科附属総合解剖センターを視察する。標本以外にも、組織実習室をはじめ、バイオハザードおよびホルムアルデヒド対策済みの系統解剖実習室・病理解剖室・法医学解剖室など、近代的で充実した設備の見学も併せて行い、解剖教育研究支援業務の向上を図る上での参考とする。また、健康医療機器メーカーであるオムロンの技術展示室(京都市)を訪れ、生体情報センシング技術など最先端の技術に触れる。【辻 富義 技術専門職員】
④ (9/10)	(工)『自然の中で宇宙が地球環境に与える影響を 考えよう』(20名程度) 工学部玄関前/西はりま天文台公園	《施設見学》西はりま天文台公園において、大自然の中真ん中で宇宙と地球環境について考える機会としたい。公開望遠鏡としては世界最大の2m望遠鏡「なつた」を見学する。研究員による特別講演を聴き、望遠鏡や観測設備に使われている様々な技術にふれて知見を高めることを目的とする。【堀井喜一郎 技術専門職員】
⑤ (9/13)	(工)『電力コントローラの製作』(12名程度) 工学研究科D2-302/同左	通常、電力をコントロールするには、スライダック(変圧器)を用いますが、電力によっては、非常に重くなります。そこで今回製作するコントローラは、トリアックという素子を使って、コンパクトで20～40Aをコントロールできます。完成した物は、持ち帰って頂き、扇風機や電熱器をボリウム1個で自由にコントロールして下さい。【伊地知武吉 技術専門職員、栗田 望 技術専門職員】
⑥ (9/14)	(理)『七宝焼きの制作』(8名程度) 講義:環境管理センター1F 環境ライブラリー室 実習:理学研究科 C-109 高温高温実験準備室	七宝焼きは金属表面にガラスを焼成して、制作します。ガラスに関する講義「ガラス・釉薬(うぐすり)について(七宝焼きに関連して)」と、実習「七宝焼き・ペンダントトップの制作」を行い、制作を通じて物の作り方を発見出すことを目的としています。【講義:梶並昭彦 准教授、実習:三軒一義 技術専門職員】
⑦ (9/28/29)	(海)『GPSと通信技術』(15名予定) 1日目:総合学術交流棟1階5C室/同左 2日目:海事科学研究科正門8:50集合/各施設等	テーマ「GPSと通信技術」に沿って、1日目の午前中は通信技術に関する講義とGPSに関する講義を受講し、午後にはGPSに関する実習を行う。また、2日目は吉野電気株式会社実習室本社および大阪湾海上交通センターの施設見学を行う。講義及び施設見学はセプトとし、講義だけはまたは施設見学だけの受講は、原則として認めない。 【1日目:講義:若林伸和 准教授、河川信義 教授、 実習:井川晶裕 技術専門職員、原野 互 技術専門職員、黒木克典 技術専門職員、油木代一 技術専門職員】 【2日目:《施設見学》「吉野電気株式会社実習室本社」(担当:原野 互 技術専門職員、井川晶裕 技術専門職員)、 「大阪湾海上交通センター」(担当:黒木克典 技術専門職員、油木代一 技術専門職員)】
⑧ (9/22)	(農)/果樹系『安芸クイン導入及び栽培技術』 (7名、内、講師を含む5名農学予定) 姫路駅南改札口8:30集合/施設	《施設見学》「独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所ブドウ・カキ研究拠点」(広島県東広島市安芸津町三津) ブドウの育種及び栽培管理について見学し、業務に役立てる。【片山克剛 講師、菅重文 技術専門職員】
⑨ (10月下旬)	(農)/畜産系『筋肉の解体』 (8名程度、内5名農学予定) 未定/施設	《施設見学》枝肉の部位別解体を見られる機会はありません。埼玉県にある「熊神戸ビーフ」の施設において食資源センターの枝肉が解体処理されるので、普段あまり見ることの出来ない解体現場を見学し、知識の向上を図る。 【本多 健 助教、久下志朗 技術専門職員】
⑩ (11月上旬)	(農)/作物系『水資源』(7名、内4名農学予定) 食資源センター/施設	《施設見学》食資源センターでは加古川西部地区の主水脈である龍屋ダムの水を利用しています。主水脈である龍屋ダムを見学し、系統及びダム用水についての認識を高める。また、作物の栽培に欠かせない防除について噴霧関係の企業である「佃いけうち」を見学する。【樋爪浩和 技術専門職員】
⑪ (23年2,3月)	(農)『未定』 食資源センター2F教室/同左	未定(平成23年2月下旬～3月上旬の1日)

※(分野)工:工学分野、農:農学分野、医:医学分野、海:海事分野、理:理学分野 ※担当講師・担当の下線は、コース担当代表者を示す。